

水道工事施工要領書

平成 28 年 4 月

座間市上下水道局

目 次

第1章 水道工事施工管理基準	1
1 一般事項	1
2 品質管理基準及び規格値	3
3 出来形管理基準及び規格値	8
4 写真管理基準	9
第2章 水道工事特記仕様書等	12
1 水道用波状ステンレス鋼管による給水管取出替工事特記仕様書	13
2 工事竣工図作成要領	21
第3章 様式等	30
1 工事打合せ簿（例）	31
2 工事日報（例）	32
3 継手チェックシート	34
4 各種オフセット図	47

第1章 水道工事施工管理基準

1 一般事項

この水道工事施工管理基準は、水道工事標準仕様書1-3-2（施工管理）に規定する施工管理について、その基準を定めるものである。

(1) 目的

この基準は、座間市水道事業者が発注する水道工事の工程、品質、出来形、安全対策等の施工管理方法について定め、出来形管理基準及び品質管理基準の規格等を満足させ、安定した水道施設の確保を目的とする。

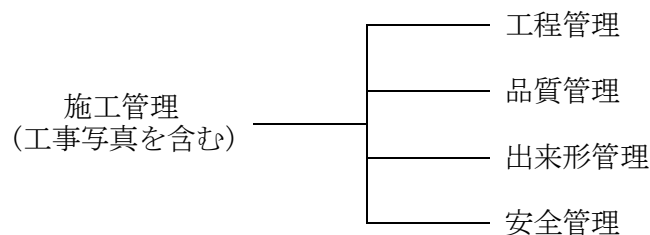
(2) 適用範囲

ア この基準は、座間市水道事業者発注の水道工事（配水管工事、その他これに類する工事）に適用する。よって工事の種類、規模、施工条件等により、この基準に定めがないものは「土木工事施工管理基準及び規格値（座間市）」による。

なお、これらに定めがない場合は、監督員と協議を行い適切な方法を定め、管理しなければならない。

イ 道路復旧等の施工管理は、各道路管理者等の定める基準によらなければならない。

(3) 構成



(4) 管理の実施

ア 請負人は、工事着手前に、施工管理計画及び現場代理人を定めなければならない。

イ 現場代理人は、当該工事の施工内容を把握し、適切な施工管理を行わなければならない。

ウ 請負人は、測定（試験）等を、工事の施工と並行して、管理の目的が達せられるように実施しなければならない。

エ 請負人は、測定（試験）等の結果を、その都度、随時管理図表に記録し、適切な管理のもとに保管し、監督員が記録の提出を求めた場合は、速やかに提出すること。また、完成時に提出しなければならない。

オ 請負人は、工事写真を施工管理の手段として、各工事の施工段階及び工事完成後、不可視部分の施工状況、出来形寸法、品質管理状況、工事中の災害写真等を「工事写真撮影基準」により撮影し、適切な管理のもとに保管し、監督員の請求に対し直ちに提示することができるようにしておくこと。また、完成時に提出しなければならない。

(5) 工程管理

請負人は、工事内容に応じネットワーク方式又は、バーチャート方式等により作成した実施工程表により工程管理し、定められた履行期限を遵守すること。また、当初計画した工程と実工程に理由なく、相違が生じないように努め、検査時に実施工程表を提出しなければならない。なお、工程管理については、特別に管理基準を定めない。

(6) 品質管理

請負人は、品質の管理を「2 品質管理基準」により行い、品質管理図表等を作成するものとする。

(7) 出来形管理

請負人は、出来形の管理を「3 出来形管理基準」により行い、設計値と実測値を対比して記録した出来形管理図表等を作成するものとする。

(8) 規格値

請負人は、「出来形管理基準」及び「品質管理基準」により、測定した各実測（試験・検査・計測）値は、すべて規格値を満足しなければならない。

(9) 是正措置

ア 工程管理

請負人は、全体及び重要な工種の工程に遅れを生じたときは、監督員と協議すること。

イ 出来形及び品質管理

a 請負人は、測定（試験）値が設計（規格）値に対し偏向を示したり、バラツキが大きき場合は、直ちに原因を究明し、改善を図ること。

b 請負人は、測定（試験）値が規格値を外れた場合には、直ちに原因を究明し、改善策をたて、監督員に報告の上、その指示を受けること。

(10) 合格判定

出来形及び品質の合格判定は、出来形管理基準及び品質管理基準に基づき、次により行うものとする。

ア 出来形測定項目及び測定基準により実測し、その規定値がすべて規格値の範囲内にあるとともに、その平均値は設計値以上なければならない。

イ 品質施工後の試験結果は、品質規格を満足しなければならない。

2 品質管理基準及び規格値

工種	種別	試験区分		試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要
水道	材料	必須	①	規格品である場合		当該規格	日本水道協会による検査	日本水道協会水道用品検査証明書
			②	規格品でない場合		管理者が型式承認したものであること	日本水道協会による検査	日本水道協会水道用品検査証明書
水圧試験	施工	必須	①	管路水圧試験	管内に充水し、所定の水圧を負荷し、一定時間保持して、この間の圧力変化を測定する。	管路に異常がなく、また、急激な圧力降下が生じないこと。		監督員立会いのもと実施する。
			②	ダクタイトル 鋳鉄管継手 部水圧試験	試験水圧は、通常0.50MPa程度。	試験水圧にて5分間経過後に0.40MPa以上保持すること。	管径800mm以上の全ての継手箇所について、実施する。	溶接継手構造の管路は溶接部の放射線透過試験または超音波探傷試験によることができる。
			③	給水管施工時の水圧試験		試験水圧1.75MPaに耐えられ1分間経過後、漏水のないこと。	全ての給水管取出替箇所において実施する。	サドル付分水栓設置箇所と、既設給水管との接合箇所まで配管後、本管分岐部から接合箇所までの配管について確認する。
			④	不断水工事の水圧試験		試験水圧に耐えられ、漏水のないこと。	全ての箇所について実施する。	試験水圧は0.75～1.0MPaを標準とし、監督員と協議する。

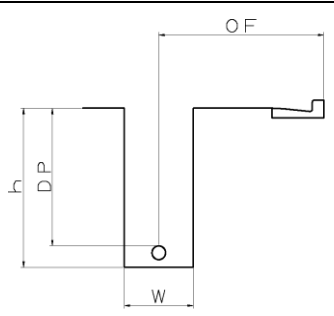
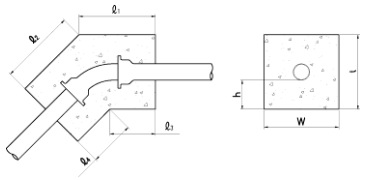
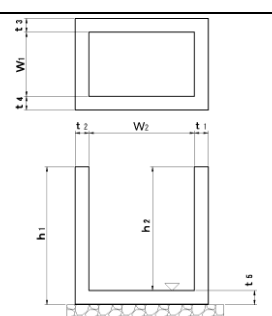
工種	種別	試験区分		試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要
管の接合	施工	必須	①	ダクタイル 鋳鉄管 継手部接合 検査	目視 ノギス等による計測 JDPa W 05 (K型) JDPa W 07 (フランジ) JDPa W 12 (NS型)	継手各部所定寸法を満たすこと。 ボルトの標準締付けトルクを満たすこと。	全ての継手接合箇所において、耐震継手管及びは大口径管の接合は必須。K型は必要に応じて実施。	チェックシートを使用して実施する。
管の溶接 (鋼管)	施工	必須	①	放射線透過 試験	WSP 008 (JIS Z 3104、 JIS Z 3050)	内部のきず： きずの分類において1類、2類または3類を合格とする。 内面へこみ： その部分の透過写真濃度が、これに接する母材部分の透過写真濃度を超えないこと。 溶落ち：いかなる方向に測った寸法も1個につき6mmまたは管の肉厚のいずれか小さい方を超えず、試験部の有効長さ当たり最大寸法の合計長さ12mm以下とする。	検査箇所数は溶接箇所数の20%とし、検査箇所は監督員の指示による。撮影は、検査箇所1箇所につき、原則として2枚とする。(時計の3時-9時または12時-6時のように対称な方向とする。)	検査の結果、不合格の箇所は欠陥部を除去して再溶接を行い、再検査する。なお、監督員からの指示により省略することもできる。

工種	種別	試験区分		試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要
管の溶接 (鋼管)	施工	必須	②	超音波探傷 試験	WSP 008(JIS Z 3060、 JIS Z 2344、 JIS Z 2345、 JIS Z 2352)	きずの分類に おいて1類、2 類及び3類を 合格とする。	上に同じ。	検査の結果、 不合格の箇所 は欠陥部を除 去して再溶接 を行い、再検 査する。原則 として放射線 透過試験と し、それによ り難い場合は 超音波探傷試 験とする。な お、監督員か らの指示によ り省略するこ ともできる。
管の溶接 (ステンレス管)	施工	必須	①	放射線透過 試験	JIS Z 3106	等級分類にお いて、1級、2 級及び3級を 合格とする。	検査箇所数は 溶接箇所数の 10%とし、検 査箇所は監督 員の指示によ る。 撮影は、検査 箇所1箇所につ き、原則とし て2枚とする。 (時計の3時 —9時または 12時—6時 のように対称 な方向とす る。)	検査の結果、 不合格の箇所 は欠陥部を除 去して再溶接 を行い、再検 査する。なお、 監督員からの 指示により省 略することも できる。

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要
内面塗装 (無溶剤型エポキシ樹脂塗料)	施工	必須	① 外観検査	WSP 052 目視	流れ、はじき、 われがないこと。	全ての塗装箇所	JWWA K 135 に 準拠する
			② 塗膜厚測定	WSP 052 電磁式膜厚計 またはこれと 同等以上の性能を有する膜厚計による。	設計図書による。	全ての塗装箇所	管径 350 mm 以下 0.3 mm 以上 管径 400 mm 以上 0.5 mm なお、監督員からの指示により省略することもできる。
			③ ピンホール	WSP 052 放電式ホリデーディテクタにより 1200～1500V の電圧で試験する。	ピンホールがないこと。	全ての塗装箇所	塗膜厚が 0.3 mm を超える場合は電圧を高く設定する。なお、監督員からの指示により省略することもできる。
			④ はつり性	WSP 052 鋼製両刃のへらを用い、常温において約 45 度の角度で塗膜の端部をはつる。	容易にはく離しないこと。	試験箇所は監督員の指示による。	破壊試験であるため、試験箇所は補修が必要である。なお、監督員からの指示により省略することもできる。

工種	種別	試験区分		試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要
外面塗装 (ジョイントコート)	施工	必須	①	外観検査	目視	防食材について、有害なきず、両端の大きくなめくれ、両端から 50 mm 以内のふくれ、焼損がないこと。	全ての被覆箇所	JWWA K 135 に準拠する
			②	ピンホール試験	放電式ホリデーディテクタにより 10000 ~12000V の電圧で試験する。	ピンホールがないこと。	全ての被覆箇所	なお、監督員からの指示により省略することもできる。
			③	膜厚検査		1.5 mm 以上あり、また工場塗覆装部との重ね代が 50 mm 以上あること。	全ての被覆箇所	なお、監督員からの指示により省略することもできる。

3 出来形管理基準及び規格値

工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
水道管理 設工	土被り DP	±50	施工延長 40mに つき1箇所(起終 点、中間点の最低 3箇所以上とす る。)及び変化点 にて測定		OFの基準位 置は監督員 の指示によ る
	幅 W	-50			
	深さ h	-30			
	占用位置 OF	±50			
	延長 L	-200			
管防護工 (コンク リート防 護工)	長さ l_n	-30	1箇所ごとに測定		
	幅 W	-30			
	厚さ t	-20			
	管下高さ h	±30			
各種弁室 (筐)等 設置工	基準高 ▽	±30	1箇所ごと 基準高は底版の ある場合 厚さ、幅、高さは 現場打ちがある 場合		
	厚さ $t_1 \sim t_5$	-10			
	幅 W_1, W_2	-30			
	高さ h_1, h_2	-30			

4 写真管理基準

工種	種別	撮影項目	撮影時期	撮影頻度	摘要	
一般	着手前及び完成	着手前と完成後の現場の状況を同一箇所から同一方向から撮影する。	着手前、完成後	40m 毎(起終点、中間点の最低3箇所以上とする。)		
	工事看板	工事看板、掲示板(建設業許可票、労災保険関係成立票、建設業退職金共済制度適用事業主工事現場の標識等)設置状況	施工中	種類毎に1回		
	主要機械、機材	低振動・低騒音・排出ガス対策型機械の表示 管加工、接合機材(切断刃、穿孔刃、トルクレンチ等)	適宜	適宜		
安全管理	安全管理	各種標識類の設置状況	設置後	種類毎に1回	安全訓練等は月1回以上1開催につき4時間以上	
		各種保安施設の設置状況	設置後	適宜		
		交通誘導員等交通整理状況	作業中	作業日毎		
		安全訓練等の実施状況	実施中	実施日毎		
材料検査	使用材料	形状寸法	使用前	監督員の指示による		
		検査実施状況	検査時	実施日毎		
布設土工	舗装切断工	切断状況及び切断幅(官民境界等からの距離及び幅)	施工中、施工後	40m 毎		
	舗装取壊工	取壊し状況(使用機械)及び舗装厚	施工中			
	掘削工	掘削状況(人力、機械)	施工中	その日に施工した区間内で最低1箇所。	掘削から仮復旧まで同一箇所、同一方向であること。	
		床付け探さ及び幅	施工後			
	土留工	矢板及び切梁、腹起設置状況	設置後			
	明示シート	敷設探さ	布設後			
	埋戻工	埋戻し状況	施工中			
		締固め状況	締固め後			
	路盤工	施工状況	施工中			
		締固め状況	締固め後			
	As 復旧工	プライムコート・タックコート散布状況(実施した場合)	施工中			
		施工状況	施工中			
		各層毎の厚さ	転圧後			
建設発生土処分	仮置場(実施した場合)	搬入前、搬出完了後	指定場所毎1回			搬入前写真は確認届に添付

工種	種別	撮影項目	撮影時期	撮影頻度	摘要	
管布設工	管布設工	管の吊りおろし、据付作業状況	施工中	その日に施工した区間内で最低1箇所	布設土工の撮影箇所と同じ箇所。	
		土被り寸法及び占用位置（道路の官民境界等からの距離）	布設後			
		配管状況（曲管、耐震継輪、特殊押輪等がわかるように）	配管後	全区間		
		伏越し等埋設物と交差する箇所（他占用物の名称、口径、離れ等を撮影）	布設後	全箇所		
		擁壁、コンクリートブロック塀等の構造物に近接する箇所（他占用物の名称、口径、離れ等を撮影）	布設後	全箇所		
		他の占用物と接近する箇所（他占用物の名称、口径、離れ等を撮影）	布設後			
	鋳鉄管切断・加工	鋳鉄管切断・加工	切断、溝切状況	加工中	実施箇所全て	耐震管
			挿しロリング、防食ゴム取付状況	取付後		
			切断ロペイント補修後の状況	補修後		
			切管延長測定状況	加工後		
	鋳鉄管接合工	鋳鉄管接合工	挿し口、受け口の清掃、滑材の塗布、接合作業状況、接合部確認状況	施工中	その日に施工した区間内で最低1箇所	
			ライナ挿入状況	挿入前、挿入後	実施箇所全て	耐震管
	ポリエチレンスリーブ被覆	ポリエチレンスリーブ被覆及び明示テープ巻付け状況	施工後	その日に施工した区間内で最低1箇所		

工種	種別	撮影項目	撮影時期	撮影頻度	摘要
弁・栓類設置工	仕切弁 不断水式仕切弁 消火栓 空気弁	設置状況、土被り	配管後	設置箇所全て	不断水式仕切弁は、不断水連絡工の項目も含む
		筐の据付、室の設置状況	設置後		
		基礎工（砕石、均しコンクリート）の施工状況及び寸法	施工中、 施工後		
水道管連絡工	既設管連絡工	既設管との連絡配管状況	配管後	連絡箇所全て	
		新設管及び既設管の土被り	配管後		
	不断水連絡工	不断水式割T字管取付状況	施工中		
		水圧テスト状況	実施時		
		穿孔状況、穿孔後の切片	施工中、 施工後		

第2章 水道工事特記仕様書等

1 水道用波状ステンレス鋼管による給水管取出替工事特記仕様書

1 適用

本仕様書は、座間市水道事業者が発注する配水管布設替工事等に伴う給水管取出替工事に適用する。

なお、本仕様書に記載のない事項については、「給水装置工事設計施工基準(座間市上下水道局)」による。

2 口径50mm以下の指定材料

口径50mm以下の分岐から止水栓（道路境界から約1m以内にメーターがある場合は、メーターまでの接続、それ以外は止水栓より30cm程度で既設管との接続を含む）までの指定材料

品名	規格	呼び径	備考
ステンレス製サドル付分水栓	JWWA B 139 又は 管理者形式承認品	(取出口径) 20・25・40・50	ボール、フランジ式
防錆コア		20・25・40・50	
水道用ステンレス鋼管継手	JWWA G 116	20・25・40・50	ソケット部に JWWA G116（伸縮可とう）の性能を満たすもの
水道用波状ステンレス鋼管	JWWA G 119	20・25・40・50	
絶縁袋ナット付メーター用ソケット（伸縮可とう）※2		20・25・40・50	JWWA G116（伸縮可とう）の性能を満たすもの
鋼管シモク		20・25・40・50	
鋼管継手	JIS B 2301	20・25・40・50	内外面樹脂コート品
鉛管用おすネジ付継手※2	オスネジ	13・20・25	砲金製
鋼管、ポリ管兼用おすネジ付継手※2	オスネジ	20・25・40・50	砲金製
〃 めすネジ付継手※2	メスネジ	13	砲金製
ステンレス製ボール止水栓	JWWA B 140	20・25・40・50	B-HIVP
ステンレス製分水栓用プラグ、キャップ	JWWA G 116 及び 管理者形式承認品	20・25・40・50	
止水栓筐	座間市型		
HIVP	JIS K 6742	20・25・40・50	直管、エルボ、ソケット
HI ガイドナット付メータユニオン	JIS K 6743	20・25・40・50	
鋼管用メータユニオン	管理者形式承認品	40・50	
埋設管明示シート	座間市型		道路内に設置
ポリエチレンスリーブ	汎用型		止水栓まで設置

※1 ステンレスは原則として SCS14 もしくは SUS316 とする。

※2 道路内等で既設給水管（異種管）と接合する場合に使用

3 施工

宅地内での給水管取出替は、宅地内1m以内で付替えを行うことを原則（参考資料-2「施工標準図」参照）とする。また、所有者の同意を得られない場合には道路内（官民境界付近まで）で施工するものとする。

なお、所有者の同意取り付けに際しては、現場代理人又は主任技術者（監理技術者）及び給水装置工事主任技術者が同行して「座間市からのお知らせ」（参考資料－ 2 参照）を用いて趣旨説明を行い、結果を監督員に報告すること。

（1）給水装置の分岐

分岐口径50mm以下の場合には、サドル付分水栓を使用し分岐を行なう。

サドル付分水栓（平行ネジタイプ）を使用し分岐を行なった場合の接続は分水栓ソケット（伸縮可とう式）を使用し、波状管にて布設することを原則とする。（波状部は最低2箇所以上設けること）。

（2）配管工事

ア）材料

分岐から止水栓までの給水管及び継手は以下のとおりとする。

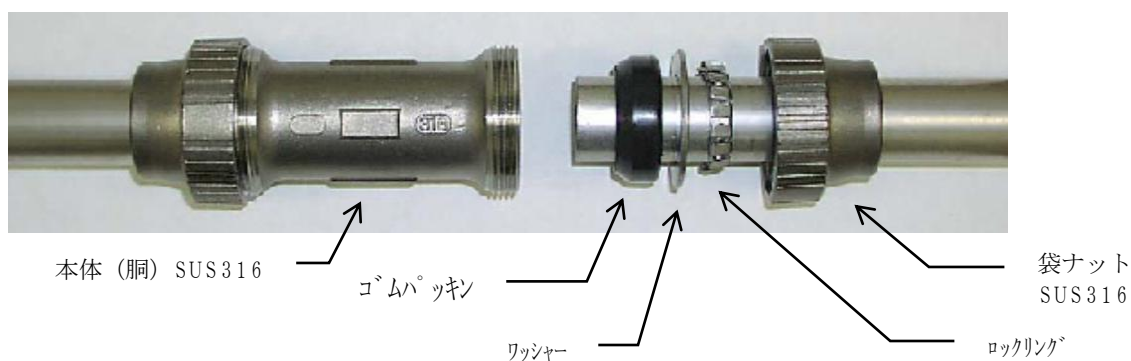
給水管・・・・・・JWWA G119水道用波状ステンレス鋼管（SUS316）

継手・・・・・・JWWA G116水道用ステンレス鋼管継手（伸縮可とう式）

イ）接合

水道用波状ステンレス鋼管（SUS316）の配管には、水道用ステンレス鋼管継手（JWWA G116 伸縮可とう式）を使用すること。

（参考）伸縮可とう継手の一例（溝付けなしタイプ）



- ① 管の切断はロータリー式チューブカッターを使用し、管軸に対して直角に変形がないよう切断し、切断時にできた切断面のバリを完全に除去する。
- ② 管の切断箇所差し込み深さ（のみ込み位置）を確認するためのマーキング又は、溝付けを必要とするものには溝付け位置のマーキングを専用工具にて行う。
- ③ 管の挿入は、適度に締め付けナットを緩め、締め付けナットの端面がマーキングの位置にあることの確認又は、溝付けを必要とするものにはロック部材が管の溝に適切に設置されていることを確認し、締め付けナットを手締めにて仮締めする。

- ④ 締付けは、パイプレンチ等を使用して締付けナットを十分締付ける。

差込み寸法基準値

単位：mm

呼び径	ワンタッチ方式
20・25	81
40・50	85

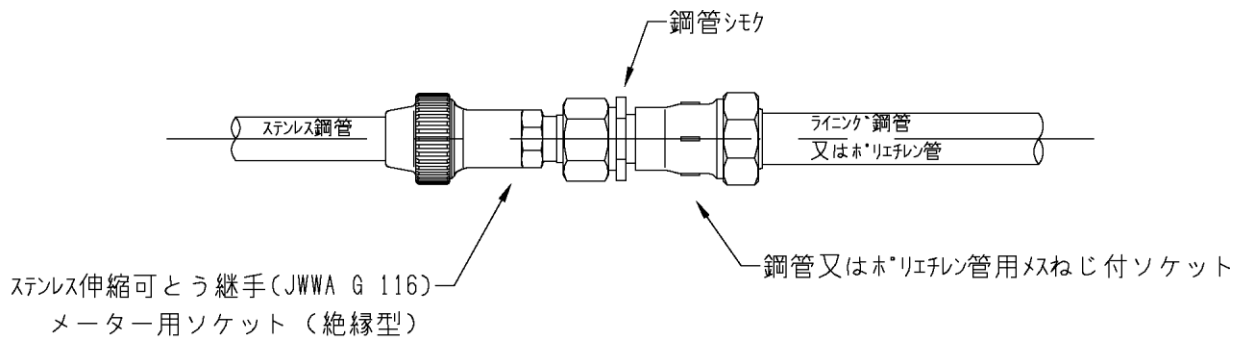
標準締付けトルク

単位：N・m

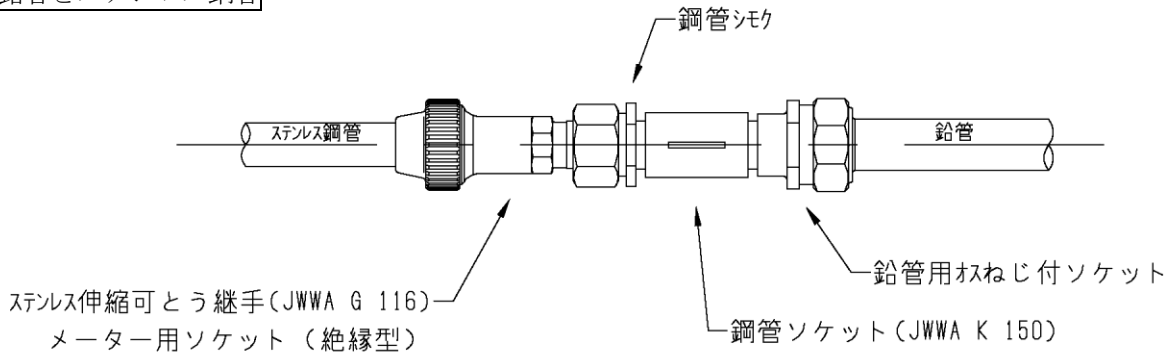
呼び径	標準締付けトルク
20・25	70
40・50	120

- ⑤ 所有者の同意が得られない等の理由により止むを得ず道路内にてステンレス管と既設給水管（異種管）と接続する場合の接合例を下記に示す。なおこのときステンレスと異種金属の接合部分には必ず絶縁処理されたものを使用すること。

ポリエチレン管、鋼管とステンレス鋼管



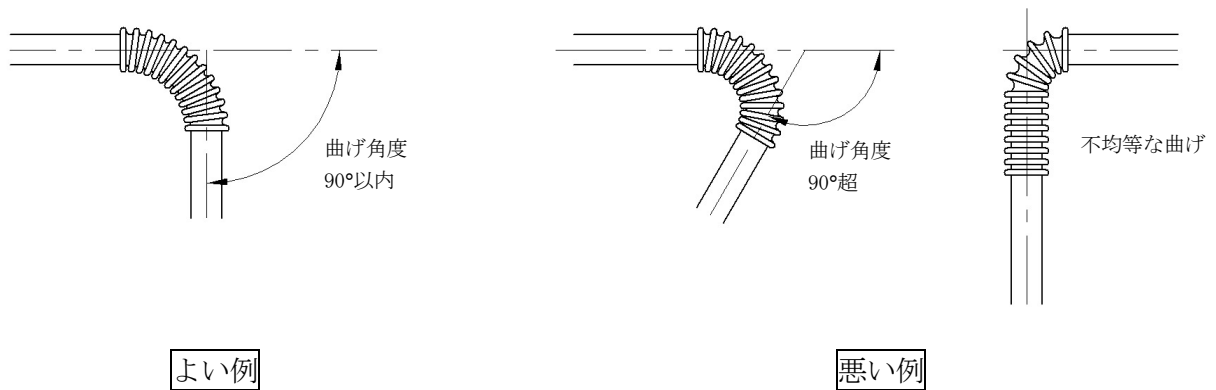
鉛管とステンレス鋼管



※既設φ13(15A)への接続には径違いメーター用ソケットを用いる

ウ) 曲げ配管

水道用波状ステンレス鋼管の曲げ配管は波状部で行ない、曲げ角度は90度以内とし、過度な繰返し曲げは行なわないこと。また波状部は滑らかなカーブで各山が均等になるように曲げ、管端に近い波状部や口径の大きな波状部など人力で曲げにくい場合は、専用の曲げ工具を使用すること。



エ) 施工上の注意

- ① ステンレス鋼管の埋設には、継手及び分岐部分を含め外面腐食防止のため、ポリエチレンスリーブを被覆すること。
- ② ステンレス鋼管と異種金属管とを接続する場合には、金属電位差による腐食を防止するための適切な絶縁措置を施すこと。
- ③ 露出する場所等でたわみ又はウォーターハンマ等による振動を防止するために、ステンレス鋼管を異種金属のバンド又はフック等で固定する場合には、適切な絶縁処理を施すこと。
- ④ ステンレス鋼管はアルカリに侵され易いため、管に直接コンクリートが触れないよう適切な侵食防止措置を施すこと。
- ⑤ ステンレス鋼管は薄肉のため、接触によるつぶれ、キズ等が生じないように保管を含め取扱いには十分注意すること。

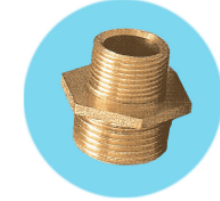
給水装置(配水管分岐～メーター)配管例

- ※ 分岐～止水栓は全てステンレス(316)製とし、管には波状管(JWWA G 119)、継手には伸縮可とう継手(JWWA G 116)を使用する事
- ※ サドル付分水栓にJWWA B 139を使用する場合は、接続形式(G:ネジ式、M:一体式)を竣工図に明記する事
- ※ 分岐～止水栓にはポリエチレンスリーブを被覆すること

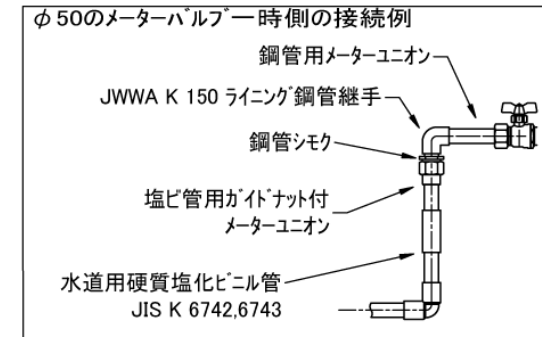
鋼管用メーターユニオン



鋼管シモク

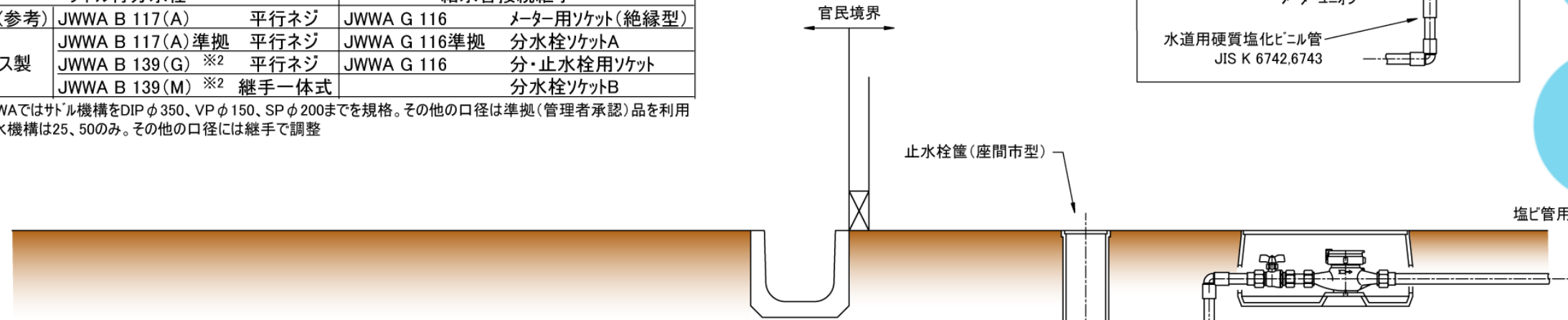


塩ビ管用ガイドナット付メーターユニオン



サドル付分水栓 ※1		給水管接続継手	
青銅製(参考)	JWWA B 117(A) 平行ネジ	JWWA G 116	メーター用ソケット(絶縁型)
	JWWA B 117(A) 準拠 平行ネジ	JWWA G 116 準拠	分水栓ソケットA
ステンレス製	JWWA B 139(G) ※2 平行ネジ	JWWA G 116	分・止水栓用ソケット
	JWWA B 139(M) ※2 継手一体式		分水栓ソケットB

※1 JWWAではサドル機構をDIP φ350、VP φ150、SP φ200までを規格。その他の口径は準拠(管理者承認)品を利用
 ※2 止水機構は25、50のみ。その他の口径には継手で調整



ステンレスサドル付分水栓
 JWWA B 117(A)準拠(管理者承認)品
 又はJWWA B 139

JWWA G 116
 分水栓ソケットA
 分・止水栓用ソケット

ステンレス伸縮可とう継手
 分水栓ソケットA(JWWA G 116準拠)
 又は分・止水栓用ソケット(JWWA G 116)

JWWA B 117(A) 準拠
 JWWA B 139(G)
 平行ネジ

防錆コア

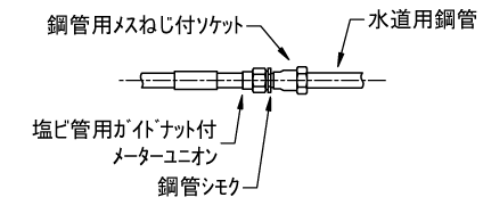
JWWA B 139(M)
 継手一体式

分水栓ソケットB
 JWWA B 139(M)

ステンレス伸縮可とう継手
 ソケット(JWWA G 116)

給水管交換工事における止水栓二次側の既設管との接続例 (原則としてメーターハルブ一時側まで交換とするが、メーターが著しく離れている場合)

○鋼管の場合



○鉛管の場合

メーター一時側が鉛管の場合は、メーターハルブまで水道用硬質塩化ビニル管を布設すること

○ポリエチレン管の場合

鋼管の場合の「鋼管用メスねじ付ソケット」を「ポリエチレン管用」とする

座間市上下水道局からのお知らせ

古くなった水道管（配水管）の取替え工事に伴う給水管の取替えについて

I 水道工事のご案内

日ごろから、水道事業にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

座間市上下水道局では、水質に影響を与えたり、漏水のおそれのある経年化した水道管（配水管）を、災害に強い水道管へ取替える工事を計画的に行っています。

この工事に伴い、各ご家庭に給水している給水管の取替え工事も行います。

取替え工事の内容は、水道管の分岐部から宅地内1m程度のところまでを新しい管へ取替えるものです。

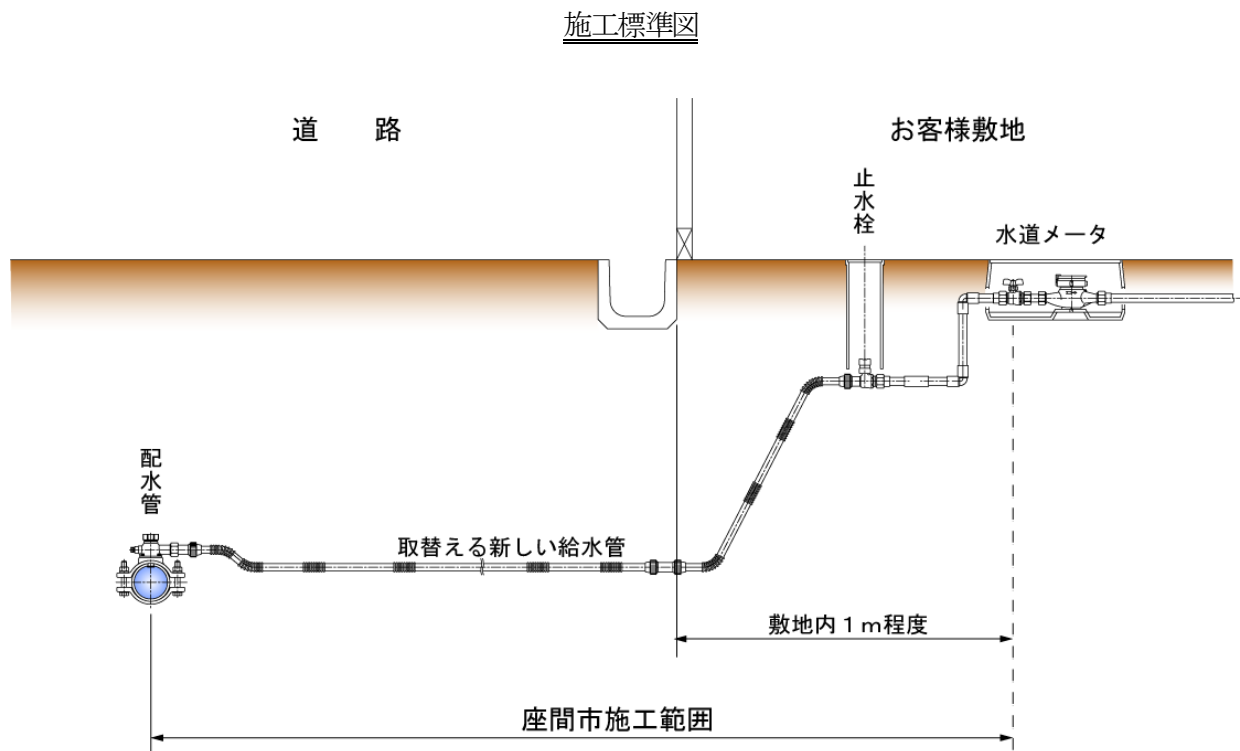
II お客様の宅地内の給水管をお取替えするには

1. お客様の私有財産である、給水管を局で工事するには、給水管の布設替え及び宅地内の掘削、埋戻し（復旧）方法について、お客様の同意が必要となります。

なお、宅地内を掘削した場合の埋戻し（復旧）につきましては、簡易な復旧となります。

2. 道路部の取替えのみで、宅地内は希望しない場合
道路部（境界まで）の取替えは局が行います。

Ⅲ 施工箇所



Ⅳ 宅地内の復旧方法

次の復旧は、局が無料で行います。それ以外の復旧を希望される場合は、お客様の負担となります。

1. 工事箇所が、芝生、土砂又は植え込みの場合の復旧方法
(植木等については、あらかじめお客様にて移設願います。)
 - ① 発生土の埋戻し (掘削した土を戻す)
 - ② 砂利敷設 (碎石：4 cm以下の大きさのもの)
2. 工事箇所がコンクリート及び特殊 (タイル、レンガ等) な場合の復旧方法
 - ① 発生土の埋戻し (掘削した土を戻す)
 - ② 砂利敷設 (碎石：4 cm以下の大きさのもの)
 - ③ 常温合材 (簡易アスファルト)
 - ④ コンクリート復旧 (厚さ10 cm程度)

Ⅴ お問合せ先

座間市上下水道局水道施設課

工務係 担当者

TEL 046-252-7519

2 工事竣工図作成要領

1 適用

1. 1 この要領は、管路施設を新設又は撤去する工事の請負業者等が、座間市上下水道局に提出する竣工図面についての基準を定めるものである。
1. 2 作図一般、記号、線の一般的用法その他この要領に定めのないものは、関係規格規定又は監督員の指示によるものとする。

2 竣工図の提出

2. 1 請負者は、竣工図の原図及びその複写図面一部を提出すること。
2. 2 複写図面は7. 8の例により着色して提出すること。
2. 3 監督員が指示した場合は、竣工図を電子ファイルで提出することができる。また電子ファイルの形式、メディアについては、監督員と協議すること。

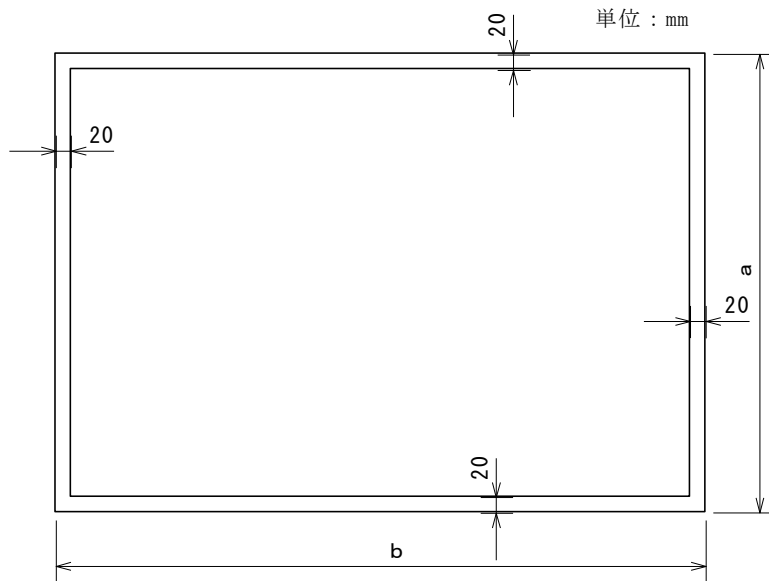
3 図面の大きさ及び紙質

3. 1 図面の大きさは、記載内容によりA 1、またはA 2を使用することを原則とする（表一 1、図一 1 参照）。なお、図面は横向きを原則とし、複数枚となる場合は同一サイズとなるようにすること。
3. 2 平面及び縦断図面等規定の大きさで作図できない場合は、分割作成とし、その接続表示を明確にすること。
3. 3 同一工事で施工場所が2箇所以上の場合は、それぞれ1箇所ごとに一葉ずつ分けて作成すること。

表一 1 図面の大きさ単位：mm

大きさの呼び方	A 1	A 2
a × b	5 9 4 × 8 4 1	4 2 0 × 5 9 4

図-1 図面の大きさ及び輪郭



注) 図面は長手方向を左右に置いた位置を正位とする。

4 表示方法

4. 1 文字の大きさ、線の太さ及び文字間のすきまは表-2を基準とする。

表-2 文字の基準単位：mm

文字の種類	文字の高さ	線の太さ	文字間のすきま
漢字、かな	6以上	0.5～0.3	線の太さの2倍以上
数字、英字	4以上		

4. 2 配水管路線は、次のとおりとすること。

新設		実線 (太さ0.6mm)
既設		一点鎖線 (太さ0.4mm)
廃止 (撤去)		二重破線+斜線 (太さ0.3mm)
廃止 (存置)		二重破線 (太さ0.3mm)

4. 3 文字は、かすれ、太さの不整等のないようにし、特に寸法線、中心線等の細線は、濃く正確に書くこと。

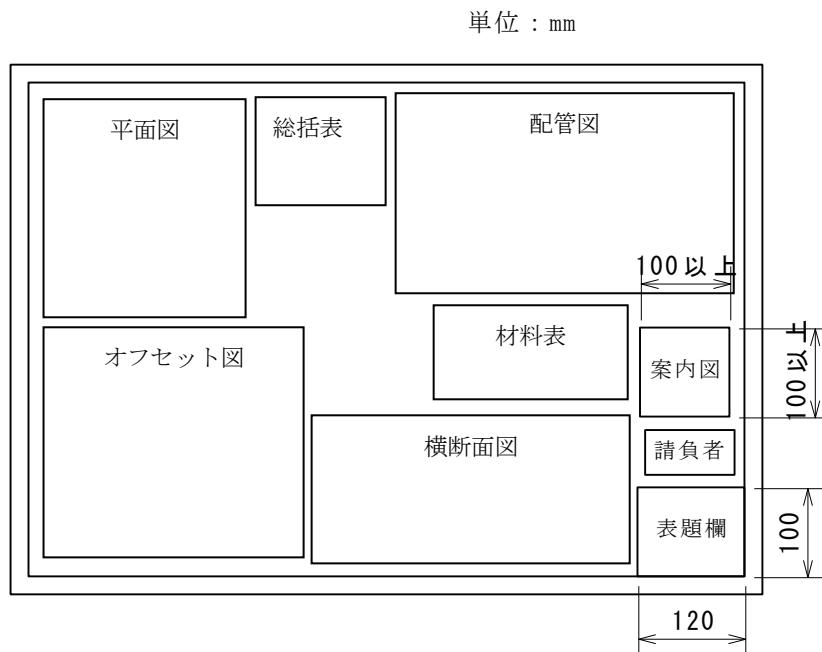
4. 4 文字は、楷書で明確に書き、数字は3桁ごと間隔をあけて書くこと。なお、ゴム印等を使用する場合には、かすれ、にじみが無いようにすること。

4. 5 寸法単位は、原則としてm表示とし、小数点第3位を四捨五入して小数点第2位まで明記すること。ただし、これにより難しい場合は、各図に又はそのつど単位記号を表示すること。

5 図面の構成（図－2 参照）

図面の構成は、工事の内容に応じ、次のとおりとする。なお、詳細図、断面図、構造図等は表示する内容により、同一図面にまとめてもよいが、極力重複を避けるよう考慮すること。

図－2 図面の構成例



5. 1 総括表（表－1 参照）

管径・管種毎にその布設延長等を記載する。なお、工事箇所が2箇所以上になる場合は工事箇所ごとに総括表を作成すること。

表－1 総括表（例）

工種	管種・口径等	数量	備考
配水管布設工	HPPE φ100	125.34m	
	DIP. NS φ100	3.20m	
仕切弁	ソフトシール仕切弁 φ100	2基	
消火栓	地下式単口	1基	
既設管撤去工	ACP φ75	100m	
	ACP φ75（存置）	5m	

5. 2 地形図

案内図、平面図等に用いる地形図は、原則として座間市都市計画基本図を利用すること。なお、市が提示した基本図が現地と異なる場合には必要に応じて測量等を行い修正し利用すること。

5. 3 案内図（位置図）

工事路線の所在地を示すもので、町名、番地など目標となる著名な建物等の名称を記入すること。なお案内図は、平面図右端におさめ、工事対象となる路線を太線で記入すること。

5. 4 平面図

- (1) 管には、その形式、口径、土被り等を記入すること（7. 8参照）。なお、平面図が数枚にわたるときは、案内図に図面番号を記入すること。
- (2) 道路には、国道、県道、市道等の路線名、舗装の種別、及び路線内に占用しているその他の埋設物の名称、位置、土被り、形質、寸法を記入すること。
- (3) 河川には、その名称、流路幅、流水方向その他必要な事項を記入すること。
- (4) 制水弁等のオフセット図は、5. 9 オフセット図の作成要領に基づき、平面図下部等の空欄に記入すること。なお、平面図が複数となる場合は、当該平面図に該当する部分のみ記入すること。
- (5) 給水取出し替えを行った場合には、その位置、口径、管種、給水番号等を記入すること。
- (6) 廃止（存置）管であっても、材質、管径及び布設年度を記入すること。

5. 5 給水管取出替図

取出し替えを行った給水管は、平面図に水栓番号、口径、布設位置を併記すること。また別に給水管取出替えに伴うオフセット図を作成すること。

5. 6 縦断面図

地形の縦断面図に、管及び構造物等の縦断状態、名称、形質、寸法、新設管布設高さ、地盤高さ、土被り、追加距離、管勾配、基準面の高さ（TP（別に指定する場合はAP又はYP））等を表示すること。ただし、監督員が特に指示した場合は、縦断面図を除くことができる。

5. 7 横断面図

道路、河川、橋梁等の横断面図に、管及び構造物の形質、寸法、位置（オフセット）等を表示すること。なお、他の占用物件（NTT、ガス、下水等）が確認された場合にはその位置を表示すること。

原則として各測点ごとに作成するものとするが、監督員が特に指示した場合は代表的な箇所のみとすることができる。

5. 8 側面図

伏越工、添架工、鞘管推進工、軌道下横断、水道橋等の場合は、管、構造物の位置、形質、寸法等を表示すること。ただし、監督員が特に指示した場合は、側面図を除くことができる。

5. 9 詳細図

管、構造物（仕切弁、空気弁、排水設備等）、舗装復旧工、掘削工、基礎工、配筋、防護工、加工、取付け、その他の部分の詳細を表示すること。ただし、監督員が特に指示した場合は、詳細図を省略することができる。

5. 10 設備図

各種電気設備、機械設備等の構造、性能、据付方法を表示すること。

5. 11 配管図

継手別記号表を参考に直管、異形管等の接合位置、材料等を表示すること。なお、曲管等の使用による表示方法は7. 4を参考にすること。

また材料名、規格、数量、製造会社名を記した主要材料表も表示すること。（表－2 参照）

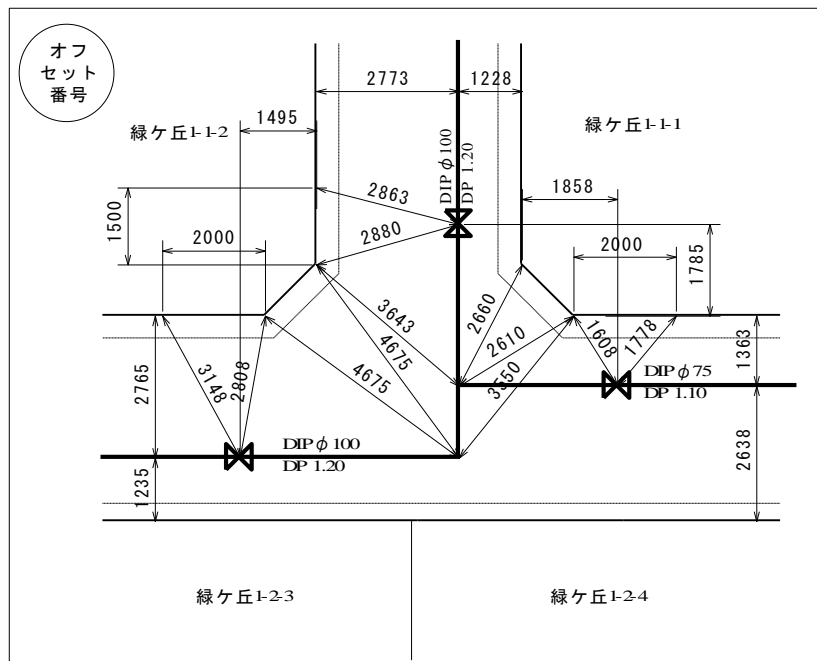
表－2 主要材料表（例）

番号	名称	呼び径・寸法	管種	単位	数量	備考	製造会社名
①	NS形 直管	75×4000	1種	本	14	エポキシ粉体塗装	
②	NS形 切用管	75×4000	1種	本	2	エポキシ粉体塗装	
③	NS-K形 直管	75×4000	1種	本	1	エポキシ粉体塗装	
④	NS形 曲管	75、45°		個	2		
⑤	NS形 切用管挿しロリング*	75		個	2		
⑥	NS形 ライフ	75		個	2		
⑦	K形 継輪	75		個	1		
⑧	K形 挿し受片落管	100*75		個	2		
⑨	K形 短管1号	100、形式2		個	1	フランジ（GF）接合材含む	
⑩	K形 栓	75		個	1		
⑪	特殊押輪	75		個	4		
⑫	特殊押輪	100		個	2		
⑬	フランジ接合材	100、GF		組	1		

5. 1 2 オフセット図 (図-3 参照)

- (1) オフセット測量は、新設の仕切弁、消火栓、空気弁、排水設備、連絡部、曲管部その他必要な箇所配管後直ちに管上にポール等を設置し計測すること。
- (2) オフセットの基点は、将来においても認識可能と思われる半永久的な地点 (構造物) の3点以上とし、相互の広角は原則として 120° 前後とする。なお、この場合の基点に水道施設 (弁筐類) は用いてはならない。
- (3) 半永久的な構造物にやむを得ずマンホール、電柱 (コンクリート柱) 等を利用する場合には、マンホールはその中心、電柱等その他の構造物は測定距離が最短となる箇所を基点とし図にその位置を明確に記すこと。
- (4) オフセット図は、基点、引照点及び寸法が明瞭に判読できるよう作成すること。
- (5) オフセット図には、平面距離のほか、管種、管径、土被り、道路幅員、道路構造物 (側溝等、種類も記載) 及び埋設位置 (はなれを含む)、地先目標、方位等を必ず記入すること。また、道路構造物のほか民地の塀、柵等の構造物も記入すること。
- (6) オフセット図の大きさ (縮尺) は、図面の構成に応じて適切な形、大きさにすること。

図-3 オフセット図



5. 1 3 標題欄 (図-4 参照)

標題欄は、図面の右下隅に設けること。また図面が複数となる場合にも各図に設けること。

図-4 標題欄

110											
工事名											12
図名											12
施工箇所											10
種別											10
工事番号											10
縮尺		工期	平成	年	月	日	図番	/			12
			平成	年	月	日					12
											12
											12
											90

※種別は新設、布設替、切回、修繕等の別を、工事番号は監督員の指示による。

5. 1 4 請負者欄 (図-5 参照)

標題欄の上部に請負者欄を設け、届け出印を押印して提出すること。

図-5 請負者欄

100	
請負会社名：	
代 表 者：	
現場代理人：	
提出年月日：平成 年 月 日	
50	

5. 1 5 その他

- (1) 上記以外の図面を必要とするときは、その図面を作成し提出すること。特に、存置した仮設材などは必ず図示すること。
- (2) 図面の順序は、平面図 (案内図、配管図、オフセット図を含む)、縦断面図 (断面図を含む)、詳細図等の順とすること。

6 縮尺

6. 1 縮尺は、設計図及び次の基準によることを原則とする。

案内図 (位置図)	1 : 5, 000、1 : 10, 000
平面図	1 : 250、1 : 500
縦断面図	縦1 : 100 横1 : 500
横断面図	1 : 50、1 : 100
オフセット図	特に定めない (明瞭に判別できること)

側面図、詳細図、設計図は、監督員の指示による。

6. 2 縮尺は、標題欄の該当箇所に記入する。同一図面に異なる縮尺を用いる場合は、各図にその縮尺を記入すること。

7 作図上の表示

7. 1 案内図、平面図、オフセット図には、必ず方位を入れること。

7. 2 図面は、原則として「北」を上方とすること。

7. 3 平面図の管種の表示は次の例によること。

(1) 鋳鉄管

遠心力高級鋳鉄管	(メカニカルA形)	～ (C I P. A)
遠心力ダクタイル鋳鉄管	(メカニカルA形)	～ (D I P. A)
〃	(メカニカルK形)	～ (D I P. K)
〃	(NS形)	～ (D I P. NS)

(2) 鋼管 (S P)

材質 (S S 4 1、S T P G、S P G等) 及び管厚を記入すること。

(3) 石綿セメント管 (A C P)

(4) 耐衝撃性硬質塩化ビニール管 (H I V P)

(5) ステンレス鋼管 (S S P)

(6) 遠心力鉄筋コンクリート管 (R C P) : さや管、排水管の別も記入すること。

(7) 水道配水用ポリエチレン管 (H P P E)

7. 4 配管図の異形管等の使用による表示は次によること。なお (2)、(3) により土被りを変化させた場合には、その土被りを表示すること。

(1) 平面的に管路を変化させたもの H. B (Horizontal Bend)

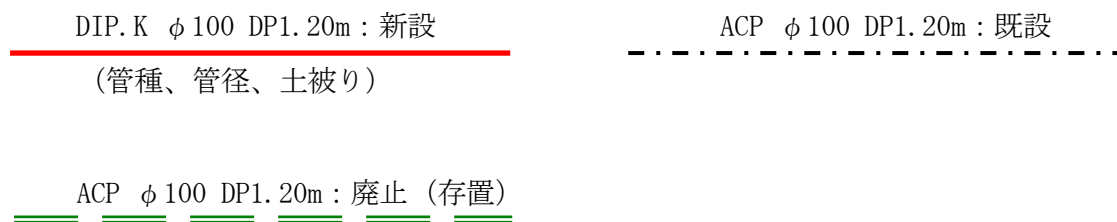
(2) 鉛直的に管路を変化させたもの V. B (Vertical Bend)

(3) 複合的に管路を変化させたもの C. B (Combination Bend)

7. 5 管体又は構造物を塗装した場合は、平面図にその仕様 (製造会社名、塗料名、塗膜厚、色等) を記入すること。

7. 6 塗覆装管は、平面図にその仕様を記入すること。

7. 7 伸縮可撓管は、平面図にその仕様（製造会社名、形式名、許容偏心量、許容伸縮量、設置年月日）及び設置状況図を記入作成すること。なお、埋設される伸縮可撓管の設置状況図は、基点を伸縮可撓管の中心としたオフセット図とすること。また、設置後露出する伸縮可撓管（水道橋等）については、基点、引照点を明記すること。
7. 8 平面図上の既設配水管、新設配水管の表示は次によること。



※この要領は平成20年4月以降に完成する工事について適用する。

※この要領は平成28年4月以降に完成する工事について適用する。

第3章 様式等

2 工事日報（例）

工事 工事日報						
年 月 日	平成	年	月	日	曜日	天 候
請負業者名						
現場代理人						
施工概況図						
施工概況						
工種	設計数量	既施工	本日施工	累計	出来高%	備考
特記事項（監督員記入）						
				課長	係長	合議
				監督員		

3 継手チェックシート

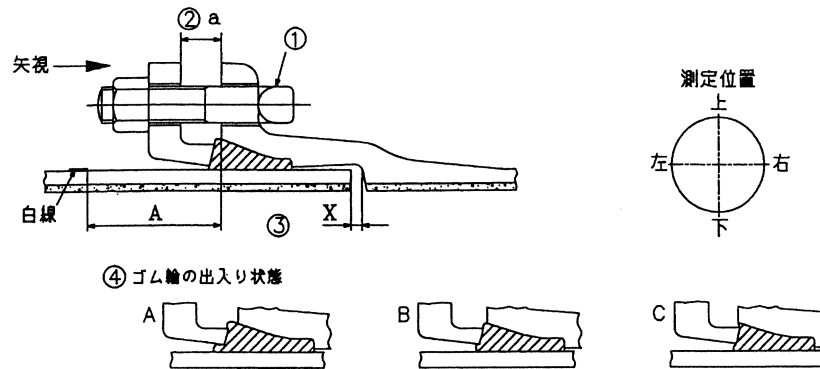
K 形継手チェックシート

年 月 日

工事名	
工区	
配管図 No.	
測点 No.	
呼び径・管種	

	配管主任	指導員	担当

継手施工者名 ()



管No.及び形状

略図

継手 No.							
清掃							
滑剤							
①ボルト	数						
	トルクN・m						
②押輪 -受口端面間隔(a)	上						
	右						
	下						
	左						
③受口端面 -白線の間隔(A) または胴付間隔(X)	上						
	右						
	下						
	左						
④ゴム輪の出入状態	上						
	右						
	下						
	左						
判定							

判定基準 ②押輪-受口端面の間隔(a) : 最大値-最小値 $\leq 5\text{mm}$ (同一円周上)

③受口端面-白線の間隔(A) : 呼び径 $75\sim 250\text{mm}$ $A \leq 95\text{mm}$

呼び径 $300\sim 600\text{mm}$ $A \leq 107\text{mm}$

または胴付間隔(X) : $X \leq$ 表2の値

④ゴム輪の出入状態 : 同一円周上にA, C または A, B, C が同時に存在しないこと。

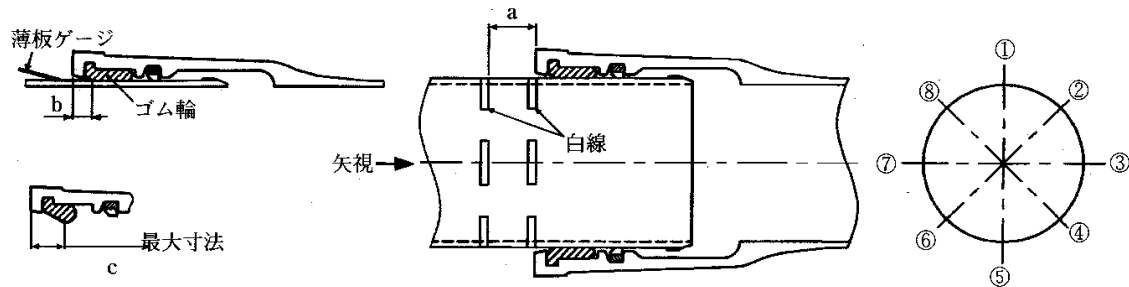
NS形継手チェックシート (φ75～φ450)

年 月 日

工事名	
工区	
配管図 No.	
測点 No.	
呼び径・管種	

	配管主任	指導員	担当

継手施工者名 ()



管No.及び形状

略図

継手No.

清掃

滑剤

受口溝(ロックリング)の確認

受口面～ゴム輪の最大寸法(c)

受口面～ゴム輪
間隔 (b) ※1

全周チェック

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

受口面～白線
間隔 (a)

①

③

⑤

⑦

判定

備考

判定基準：受口面～ゴム輪間隔 (b) < 受口面～ゴム輪 (仮測定) 最大寸法 (c)

※1 薄板ゲージを全周にわたって受口と挿し口のすき間に差し込み、 $b < c$ であることを確認する。
全周にわたり c 以下であれば、そのうち円周 8 箇所の値をチェックシートに記入する。

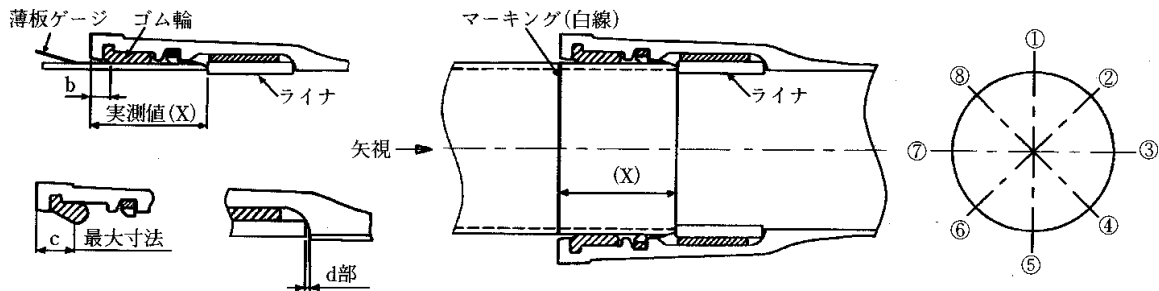
NS形継手チェックシート (ライナ使用 φ75～φ450)

年 月 日

工事名	
工区	
配管図 No.	
測点 No.	
呼び径・管種	

	配管主任	指導員	担当

継手施工者名 ()



管No.及び形状

略図

継手No.

清掃

滑剤

受口溝(ロックリング)の確認

受口面～ゴム輪の最大寸法(c)

受口面～ゴム輪
間隔 (b) ※1

全周チェック

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

ライナ位置の確認 (d 部)

挿入位置の確認※2

判定

備考

判定基準：受口面～ゴム輪間隔 (b) < 受口面～ゴム輪の最大寸法 (c)

※1 薄板ゲージを全周にわたって受口と挿し口のすき間に差し込み、 $b < c$ であることを確認する。

全周にわたり c 以下であれば、そのうち円周 8 箇所の値をチェックシートに記入する。

※2 現場で明示したマーキング(白線)上に受口端面があること。

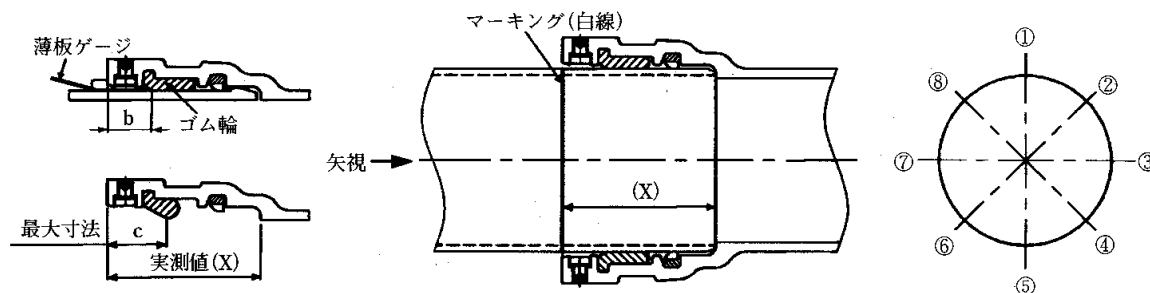
NS形異形管(φ75~250)チェックシート

年 月 日

工事名	
工区	
配管図 No.	
測点 No.	
呼び径・管種	

	配管主任	指導員	担当

継手施工者名 ()



管No.及び形状

略図

継手No.

清掃

滑剤

受口溝(ロックリング)の確認

受口面～ゴム輪の最大寸法(c)

受口面～ゴム輪
間隔 (b) ※1

全周チェック

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

挿入位置の確認※2

屈曲防止リングの確認※3

判定

備考

判定基準：受口面～ゴム輪間隔 (b) < 受口面～ゴム輪の最大寸法 (c)

※1 薄板ゲージを全周にわたって受口と挿し口のすき間に差し込み、 $b < c$ であることを確認する。

全周にわたり c 以下であれば、そのうち円周8箇所をチェックシートに記入する。

※2 現場で明示したマーキング(白線)上に受口端面があること。

※3 屈曲防止リングと挿し口外面に薄板ゲージが入らないこと。

NS形異形管(φ300~450)チェックシート

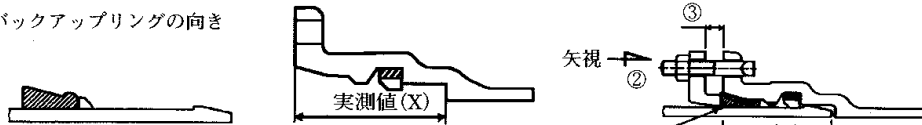
年 月 日

工事名	
工区	
配管図 No.	
測点 No.	
呼び径・管種	

	配管主任	指導員	担当

継手施工者名 ()

①バックアップリングの向き



④ゴム輪の出入状態



管No.及び形状								
略図								
継手No.								
清掃								
滑剤								
受口溝(ロックリング)の確認								
①バックアップリングの向き								
②ボルト	数							
	トルクN・m							
③押輪～受口間隔	上							
	右							
	下							
	左							
④ゴム輪の出入状況	上							
	右							
	下							
	左							
挿入位置の確認※								
判定								
備考								

判定基準 ①バックアップリングの向き：テーパー部が挿し口端面側にあること。

③押輪～受口間隔：最大値－最小値≤5mm（同一円周上）

④ゴム輪の出入状況：同一円周上にA、CまたはA、B、Cが同時に存在しないこと。

※ 現場で明示したマーキング（白線）上に受口端面があること。

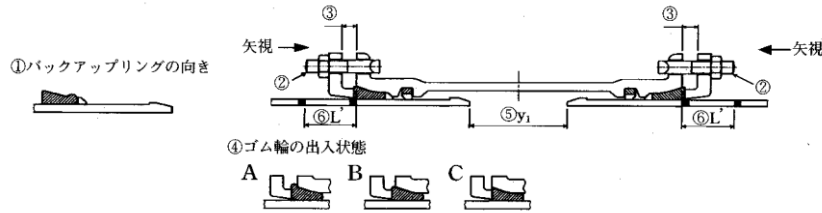
NS形継ぎ輪チェックシート (φ75～φ450)

年 月 日

工事名	
工区	
配管図 No.	
測点 No.	
呼び径・管種	

	配管主任	指導員	担当

継手施工者名 ()



管No.及び形状

略図

清掃

滑材

受口溝(ロックリング)の確認

①バックアップリングの向き

②ボルト

数

トルクN・m

③押輪～受口間隔

上

右

下

左

④ゴム輪の出入状況

上

右

下

左

⑤両挿し口端の間隔

(y1)

上

右

下

左

⑥L' 受口端面

～白線の間隔

上

右

下

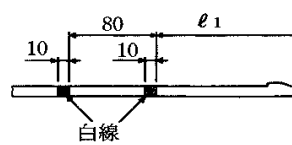
左

判定

備考

備考

1. 白線表示の位置



2. 両挿し口端間隔(y1)

単位 mm	
呼び径	y1
75,100	220
150～250	250
300～450	300

単位 mm	
呼び径	l1
75	165
100	170
150	195
200	195
250	195
300	230
350	240
400	240
450	245

3. L' 寸法(y1の場合)

単位 mm						
呼び径	75	100	150～250	300	350,400	450
L'	80	85	100	150	160	165

判定基準 ①バックアップリングの向き：テーパ部が挿し口端面側にあること。

③押輪～受口間隔：最大値－最小値≤5mm (同一円周上)

④ゴム輪の出入状況：同一円周上にA、CまたはA、B、Cが同時に存在しないこと。

注) ⑤は、一方から配管する場合には記入不要。⑥は、せめ配管の場合には記入不要。

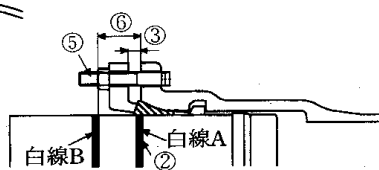
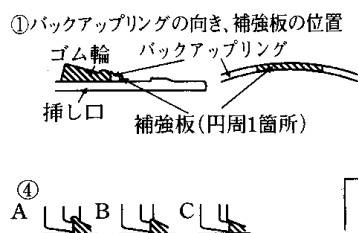
NS形継手チェックシート (φ500～φ1000)

年 月 日

工事名	
工区	
配管図 No.	
測点 No.	
呼び径・管種	

	配管主任	指導員	担当

継手施工者名 ()



単位mm

呼び径	X
500	31
600	31
700	32
800	32
900	32
1000	33

管No.及び形状								
略図								
清掃								
滑剤の塗布								
①バックアップリングの向き、補強板の位置	(1)							
	(2)							
②挿入量確認	上							
	右							
	下							
	左							
③押輪～受口間隔	上							
	右							
	下							
	左							
④ゴム輪の出入状態	上							
	右							
	下							
	左							
⑤ボルト	数							
	トルク							
⑥白線B～受口間隔	上							
	右							
	下							
	左							
判定								

判定基準 ①バックアップリングの向き、補強板の位置：(1)補強板が挿し口端面側にあること。(2)補強板がロックリング分割部の位置にあること
 ②挿入量確認：白線Aの中に受口端面があること
 ③押輪～受口間隔：最大値－最小値 ≤ 5 mm (同一円周上)
 ④ゴム輪の出入状態：同一円周上にA、CまたはA、B、Cが同時に存在しないこと
 ⑤白線B～受口間隔：最大値－最小値 $\leq X$ (X：上表参照) ④ゴム輪の出入状況：同一円周上にA、CまたはA、B、Cが同時に存在しないこと。

NS形継手 (ラケ使用・異形管) チェックシート (φ500～φ1000)

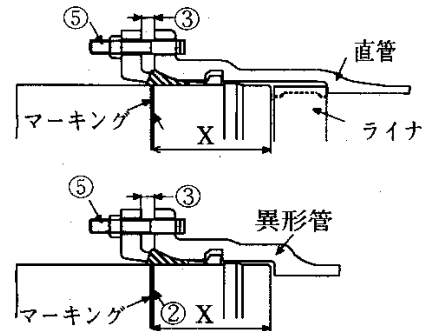
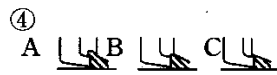
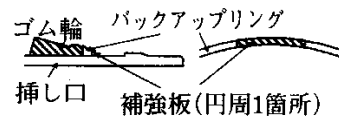
年 月 日

工事名	
工区	
配管図 No.	
測点 No.	
呼び径・管種	

	配管主任	指導員	担当

継手施工者名 ()

①バックアップリングの向き、補強板の位置



管No.及び形状									
略図									
清掃									
滑剤の塗布									
抜け出しチェック									
①バックアップリングの向き、補強板の位置	(1)								
	(2)								
②挿入量確認	上								
	右								
	下								
	左								
③押輪～受口間隔	上								
	右								
	下								
	左								
④ゴム輪の出入状態	上								
	右								
	下								
	左								
⑤ボルト	数								
	トルク								
判定									

判定基準 ①バックアップリングの向き、補強板の位置：(1)補強板が挿し口端面側にあること。(2)補強板がロックリング分割部の位置にあること
 ②挿入位置の確認：現場で明示した白線上に受口端面があること
 ③押輪～受口間隔：最大値－最小値 ≤ 5 mm (同一円周上)
 ④ゴム輪の出入状態：同一円周上にA、CまたはA、B、Cが同時に存在しないこと

NS形継ぎ輪チェックシート (φ500~φ1000)

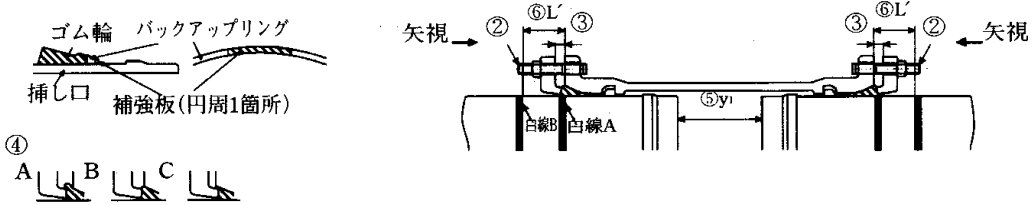
年 月 日

工事名	
工区	
配管図 No.	
測点 No.	
呼び径・管種	

	配管主任	指導員	担当

継手施工者名 ()

①バックアップリングの向き、補強板の位置

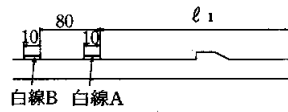


管No.及び形状			
略図			

清掃			
滑剤の塗布			
①バックアップリングの向き、補強板の位置	(1)		
	(2)		
②ボルト	数		
	トルク・m		
③押輪～受口間隔	上		
	右		
	下		
	左		
④ゴム輪の出入状態	上		
	右		
	下		
	左		
⑤両挿し口端の間隔 (y1)	上		
	右		
	下		
	左		
⑥L' 受口端面～白線の間隔	上		
	右		
	下		
	左		
判定			

備考

1. 白線表示の位置



単位mm	
呼び径	l ₁
500	220
600	220
700	257
800	265
900	265
1000	268

2. 両挿し口端間隔 (y1) およびL'寸法 (y1の場合)

単位mm		
呼び径	y ₁	L'
500	260	105
600	260	105
700	300	87
800	305	98
900	305	98
1000	310	103

判定基準 ①バックアップリングの向き、補強板の位置：(1)補強板が挿し口端面側にあること。(2)補強板がロックリング分割部の位置にあること
 ②押輪～受口間隔：最大値-最小値≤5mm (同一円周上)
 ③ゴム輪の出入状態：同一円周上にA、CまたはA、B、Cが同時に存在しないこと
 注) 両挿し口端の間隔 (y1) は、一方から配管する場合には記入不要。L' (受口端面～白線の間隔) は、せめ配管の場合には記入不要。

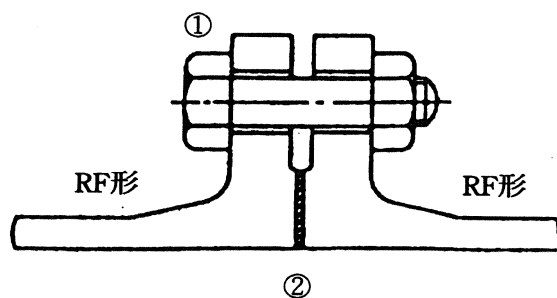
大平面座形フランジ継手チェックシート

年 月 日

工事名	
工区	
配管図 No.	
測点 No.	
呼び径・管種	

	配管主任	指導員	担当

継手施工者名 ()



製品名および形状							
製品 No.							
略図							
継手 No.							
清掃							
①ボルト	数						
	トルクN・m						
②ガスケットの位置							
判定							

判定基準 ①ボルトの締め付けトルク：表3の標準締め付けトルクによる。

②ガスケットの位置：フランジ面が平行にかたよりなく接合されていることおよびガスケットのずれがないこと。

溝形フランジ継手チェックシート(メタルタッチでない場合)

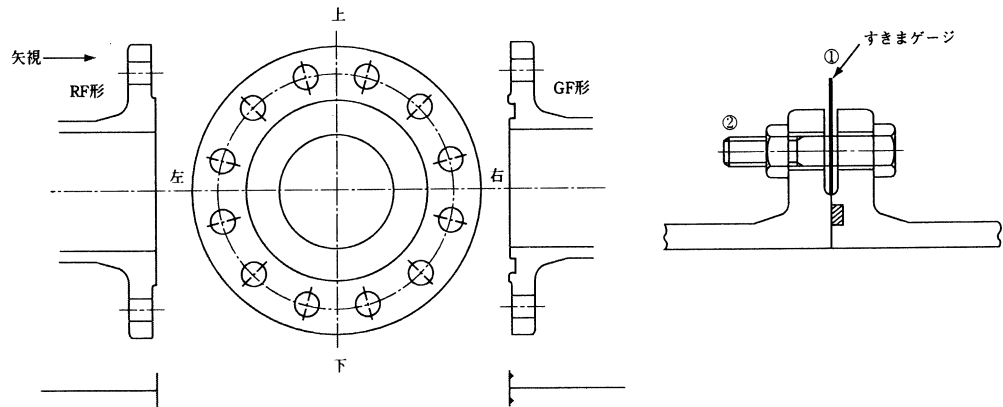
年 月 日

工事名	
工区	
配管図 No.	
測点 No.	
呼び径・管種	

	配管主任	指導員	担当

継手施工者名 ()

呼び圧力 _____



製品名および形状

製品 No.

略図

継手 No.

清掃

接着剤使用の有無

①すきまゲージ
(上限用と下限用)によるチェック

上

右

下

左

②ボルト

数

トルクN・m

判定

判定基準 ①すきまゲージによるチェック：表4に示した上限のすきまゲージが挿入できないので、下限のすきまゲージが挿入できること。

②ボルトのゆるみチェック：容易にゆるまないこと。

溝形フランジ継手チェックシート(メタルタッチの場合)

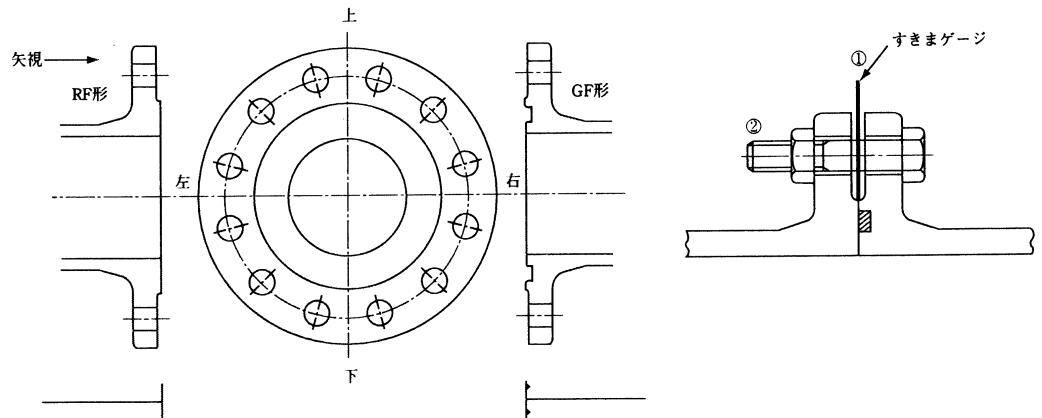
年 月 日

工事名	
工区	
配管図 No.	
測点 No.	
呼び径・管種	

	配管主任	指導員	担当

継手施工者名 ()

呼び圧力



製品名および形状							
製品 No.							
略図							
継手 No.							
清掃							
接着剤使用の有無							
①すきまゲージ (0.9mm 厚)によるチ ェック	上						
	右						
	下						
	左						
②ボルト	数						
	トルクN・m						
判定							

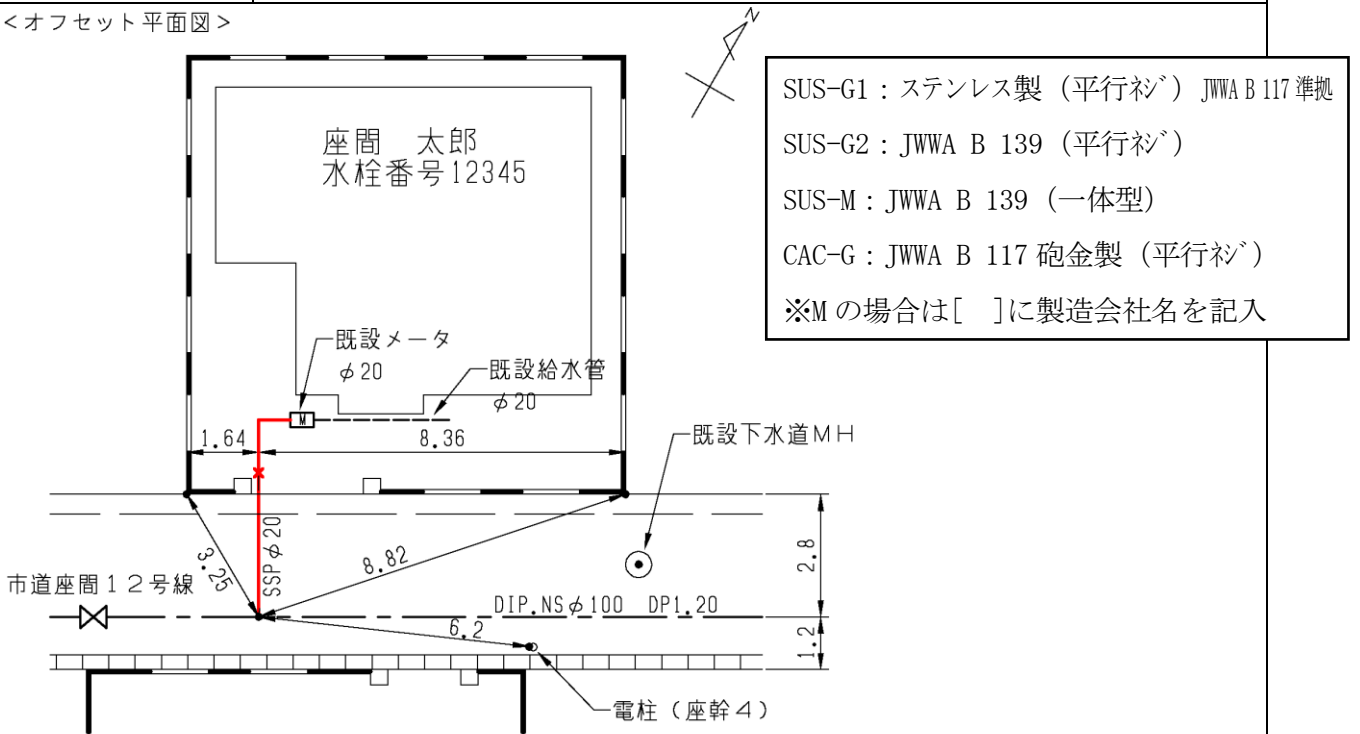
判定基準 ①すきまゲージによるチェック : : フランジ面間に 0.9 mm 厚のすきまゲージが入らないこと。

②ボルトのゆるみチェック : : 60N・m 以上

給水オフセット図面

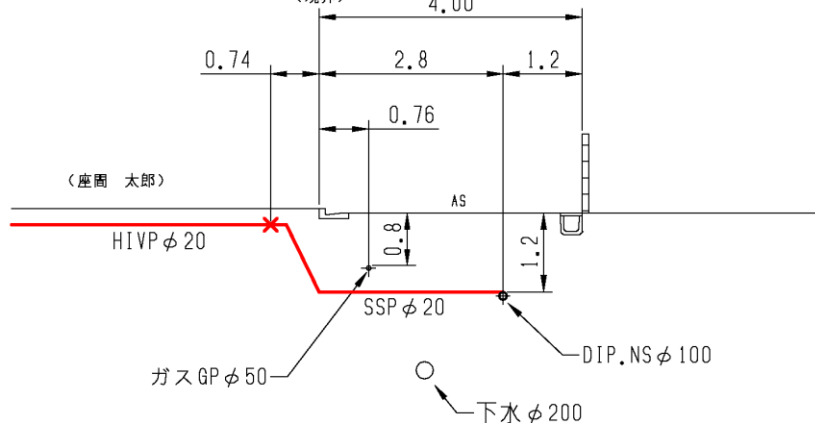
所有者氏名 (申込者氏名)	座間 太郎		工事等番号 (申請・修繕・工事等)	平成19年度 HK-19
施工年月日	平成20年 3月 1日		検査年月日	平成20年 3月25日
水栓番号	12345			
給水場所(装置場所)	座間市緑ヶ丘1-1-1			
	管種	口径	土被り	分岐部等構造
配水管	DIP	100mm	1.20m	<input checked="" type="checkbox"/> SUS- (<input type="checkbox"/> G1 <input type="checkbox"/> G2 <input checked="" type="checkbox"/> M[座間給装])
給水管	SSP	20mm	1.20m	<input type="checkbox"/> CAC(砲金)-G <input type="checkbox"/> その他 () (止水栓: <input checked="" type="checkbox"/> SUS <input type="checkbox"/> 砲金)
工事内容	<input type="checkbox"/> 新設 (<input type="checkbox"/> 給水本管 <input type="checkbox"/> 各戸) <input type="checkbox"/> 改造 <input type="checkbox"/> 撤去 <input checked="" type="checkbox"/> 配水管等布設替工事 <input type="checkbox"/> 修繕工事・依頼工事			
施工業者	座間水道店		担当: 座間一郎	TEL: 046-255-1111

< オフセット平面図 >



< 断面図 >

※他の占用管であっても位置が明確に分かったものは記載する事
(境界)

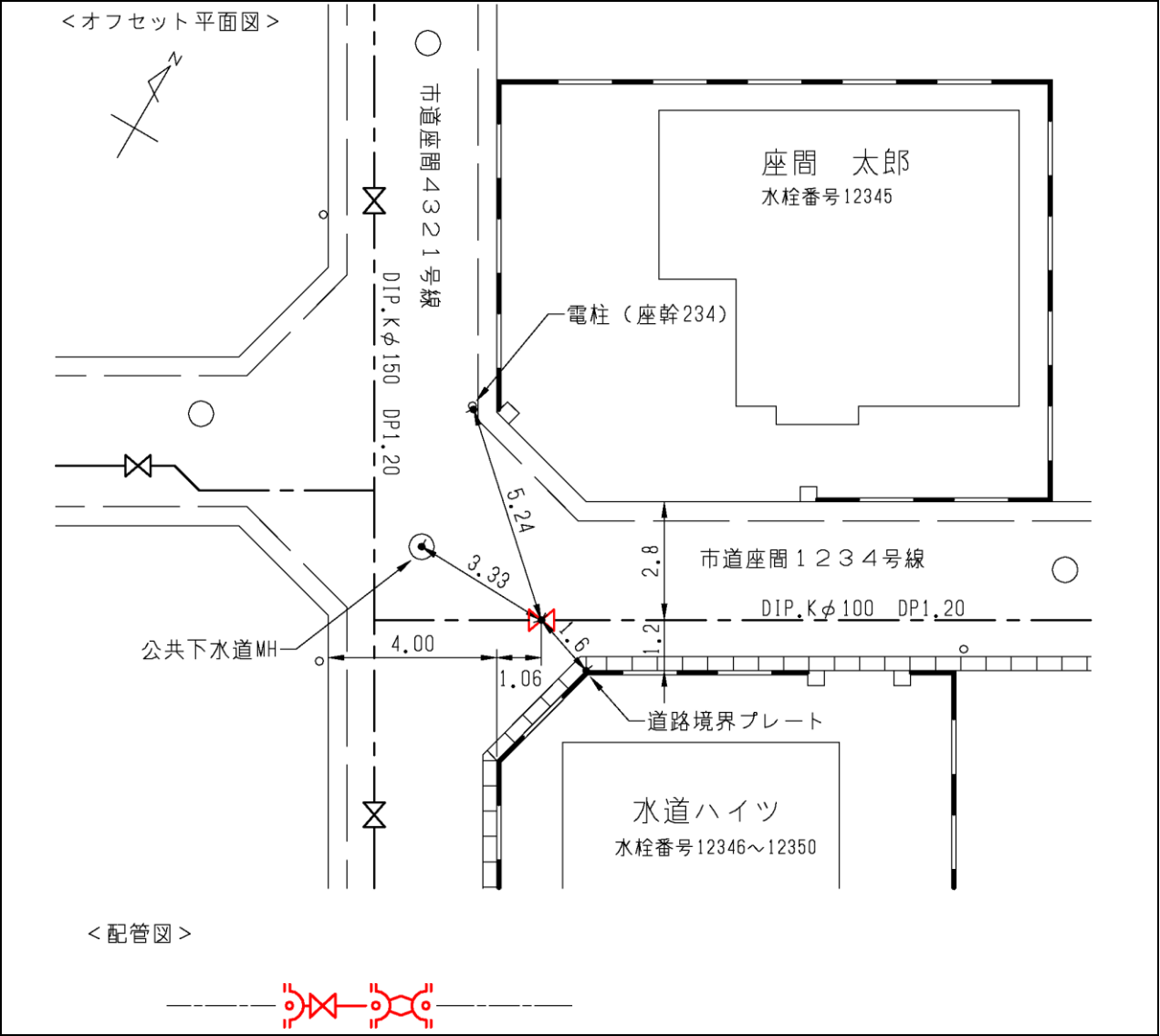


仕切弁（筐）オフセット図面

管 理 番 号		工 事 等 番 号 (申請・修繕・工事等)	平成19年度 S-5
施 工 年 月 日	平成20年 2月15日	検 査 年 月 日	平成20年 3月10日
路 線 番 号	市道座間1234号線		
施工場所(設置場所)	座間市緑ヶ丘1-1-1		
	管種	口径	土被り
設 置 管	DIP	100mm	1.20m
工 事 内 容	種 別	<input type="checkbox"/> 布設(替)工事 <input checked="" type="checkbox"/> 修繕・依頼工事 <input type="checkbox"/> 給水本管工事	
	弁本体	<input checked="" type="checkbox"/> 新設 <input type="checkbox"/> 交換 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 残置(埋戻し) (<input checked="" type="checkbox"/> ソフト (<input type="checkbox"/> 浅埋形 <input checked="" type="checkbox"/> 通常形) <input type="checkbox"/> 鋳鉄 <input type="checkbox"/> 不断水[])	
	弁 筐	<input checked="" type="checkbox"/> 新設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 交換 <input type="checkbox"/> 調整 <input type="checkbox"/> その他()	

製造会社名

内 容 詳 細 (監督員・検査員記入)			
施 工 業 者	座間水道店	担当：座間一郎	TEL：046-255-1111



消火栓・排水弁・空気弁（筐）オフセット図面

管 理 番 号	緑ヶ丘1-15	工 事 等 番 号 (申請・修繕・工事等)	平成19年度 HK-22
施 工 年 月 日	平成19年12月 2日	検 査 年 月 日	平成20年 3月 2日
路 線 番 号	市道座間1256号線		
施工場所(設置場所)	座間市緑ヶ丘1-1-1		
	管種	口径	土被り
設 置 管	DIP	100mm	1.20m
工 事 内 容	種 別	<input checked="" type="checkbox"/> 布設(替)工事 <input type="checkbox"/> 修繕・依頼工事 <input type="checkbox"/> 給水本管工事	
	本 体	<input checked="" type="checkbox"/> 新設 <input type="checkbox"/> 交換 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 残置 (消火栓： <input checked="" type="checkbox"/> 単口 <input type="checkbox"/> 双口 <input type="checkbox"/> 空気弁付、空気弁： <input type="checkbox"/> 急速 <input type="checkbox"/> 小型)	
	補修弁	<input checked="" type="checkbox"/> 新設 <input type="checkbox"/> 交換 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 残置 <input type="checkbox"/> 未設置 (H= 100mm)	
	弁 筐	<input checked="" type="checkbox"/> 新設 <input type="checkbox"/> 交換 <input type="checkbox"/> 調整 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> その他() (構造： <input checked="" type="checkbox"/> 3号 <input type="checkbox"/> 4号、蓋表示： <input checked="" type="checkbox"/> 消火栓 <input type="checkbox"/> 排水弁 <input type="checkbox"/> 空気弁 <input type="checkbox"/> その他)	
内 容 詳 細 (監督員・検査員記入)	浅埋形1FT字管使用		
施 工 業 者	座間水道店	担当：座間一郎	TEL：046-255

不断水割丁字管
を使用した場合は
製造会社名及
び型番も記載

< オフセット平面図 >

